

令和4年度 第4回 甲賀市環境審議会 議事摘録

- 開催日時 令和5年（2023年）2月1日（水）
10時00分～11時30分
- 開催場所 甲賀市役所 別館会議室101
- 出席委員（敬称略） 7名
〔会長〕 竺文彦
〔委員〕 中島仁史、金子利佳、石山利則、青木純一、
高橋美香、大西智子、（欠席：村木一志）
- 事務局（敬称略） 7名
〔市民環境部〕 澤田いすづ、地平勝弥
〔生活環境課〕 前田三嗣、相原功志、田原正史、西野久俊、
赤松さくら
〔甲賀市地球温暖化対策実行計画策定支援業務受託業者〕
株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 2名
調査協力会社 2名
- 傍聴 1名
- 会議次第
1. 市民憲章唱和
2. あいさつ
3. 審議事項
（1）甲賀市地球温暖化対策実行計画について
4. その他
- 配布資料
・資料1 アンケート調査結果報告書
・資料2 甲賀市地球温暖化対策実行計画（たたき台）
・資料3 基礎調査報告資料
・資料4 策定スケジュール
・資料5 第3期計画（事務事業編）の成果

会議内容

1. 市民憲章唱和（司会朗読）

2. あいさつ（会長）

会長＞ 実行可能な計画とし、甲賀市もよくやっていると言われるような計画にしていきたい。

3. 審議事項

（1）甲賀市地球温暖化対策実行計画について

市民環境部長から会長に諮問書を提出

会長＞ 事務局から説明をお願いします。

事務局＞ （資料1～5を説明）

会長＞ 来月の審議会は書面開催ということだが、対面形式での開催ではないのか。

事務局＞ 資料をお送りしてご確認いただき、ご意見を事務局までいただく方法がスムーズだと考えている。

会長＞ 全員が資料を読み込んでいる訳ではないため、集まって説明をいただき意見を出した方がよいと思うので検討をお願いしたい。

来年度1年かけて審議をするということを確認した。それでは、たたき台について審議をしたい。

まず、私の感想を述べる。42ページの現在の温室効果ガス排出量から下げていくというグラフでは、令和32年に温室効果ガス排出量をゼロに持っていくことが目標だというのが、現実的には難しいと思う。ゼロにするという目標は適当なのか。

行政の計画は目標を達成できなくても、民間のように責任を問われるという訳ではない。計画が無意味だということではなく、目標に向かって努力しようということに価値があると思う。

例えば、省エネをやりたいという家庭でも、費用の負担を考えて尻込みする家庭もあるだろう。目標達成に向けて家庭に限らず民間も含めみんながどこまで身を切って取り組めるかという意欲が問題なのではないかと思う。

目標達成は難しい、並大抵の努力ではできないけど頑張ろうという意欲を示してほしい。企業も民間も行政も努力しないと目標を達成できないということを書いてほしい。

委員＞ 今のグラフに森林吸収が含まれていないので、含めた方がよいと思う。

排出量をゼロにするために、小水力発電の可能性のあるすべての場所で発電に取り組むというような具体的な目標を設定する必要がある。できなくても2030年までに市役所庁舎の半分に太陽光発電を設置するとかバイオマス発電を2つ作るというような施策の目標をより具体的に記載すべきではないか。

小水力発電の場所がたくさん書かれており、全部で発電ができれば良いと思う。具体的な目標があると、やりやすい。

ここに記載のある時期以外で、定例の環境審議会では評価をされるのか。

事務局> 森林吸収分について記載するようにグラフを修正しているところ。

今回は計画策定に関するスケジュールを示しているものであり、普段の環境全般の審議会については、例年通り実施する予定である。

小水力発電の実施については調査を進めていく中で変わってくる。所有者の意向や調査結果によって変わってくる。

市役所庁舎の目標も庁内協議する中で入ってくる。今回は大枠を示しており、今後更新する中で協議をいただきたいと考えている。

委員> 甲賀市環境未来都市宣言が中心となると考えていた。宣言の5つの挑戦にあわせて、5つの基本方針があるのではないかと思う。計画が宣言と違う方向で動いているように感じる。

調整が難しいのであれば、表現を挑戦に合わせる形で記載を検討してほしい。

会長> 企業の計画には財政の裏付けがあるが、行政には財政の裏付けがなく、市民の協力もどこまで得られるかわからない。そのため計画の内容も不明瞭になってしまうのは仕方がないと思う。

委員> 107ページの実行していく推進体制について、しっかりと設立してほしい。行政の中で、縦割りで事業が進んでいかないのではないかという心配がある。

甲賀市の特性でもある産業部門の排出量を減らすには、産業に働きかけるという取組が重要。そのための仕組みを考えるべきだと思う。

事務局> 本年度は庁内で検討が始まったばかりで、議論をこれから活発化させる予定である。行政だけでなく市全体でコンセンサスを図る体制を検討中で、来年度早々には示したいと考えている。

委員> 県と行う事業所への立入調査の際に、しっかりと働きかけるべきだと思う。

委員> 市民との関わりの視点でたたき台を見たが、太陽光発電の導入が印象的だった。再生可能エネルギー＝太陽光発電ということで話が進んでいる。太陽光パネルを購入する際に補助があっても自己負担があり、そのことで導入できない人もいるという現状がある。20～30年経ったときに太陽光パネルを廃棄する問題もある。購入の際には補助があっても廃棄の補助はない。親が整備した太陽光パネルを継承する子どもたちが苦勞するというのも問題だと思う。

愛知県豊橋市のように、生ごみを燃やして発電しているところもある。そのような他の選択肢を選ばず、太陽光だけというのもどうなのかと思う。バスや鉄道の本数を増やしそれを利用した方が社会貢献になるのではないか。

会長> 計画にどこまで具体的に書けるかという問題もある。水力等は家庭でどうにかできる話ではない。企業にお願いする際に、そのことを計画にどこまで書けるかが問題である。

家庭でできることは省エネが中心でエネルギーを生み出すなら、太陽光や木質ペレットストーブ、ZEHのような断熱に限られるとも思う。

計画を見ても当事者意識を持ってもらえない気がする。家庭でできることを少しでも具体的に記載してはどうか。可能かどうかはわからないが、木質ペレットスト

ープの導入のように具体的な記載があってもいいのではないか。

事務局> 市民が協力できることをもう少し盛り込みたいと思う。

他市町でも同様に、現実的な数値としてはどうしても太陽光発電が中心になりがちではあるが、小水力やバイオマス発電を盛り込み、甲賀市らしい計画にしたい。

会長> 伊賀市等の他市町でバイオマスのメタン発酵を見学しているが、儲からないという問題がある。儲かるなら全国の企業に広がっている。そこをどうするかが一番難しい問題だと思う。

木材にしても、儲かるなら森林組合等がどんどん進めていく。儲からないから手を出さないのが現状である。

石油や外国の木材の値段が上がってきているので、状況が変わりつつある。そこに踏み込めないだろうか。

委員> 46ページの2030年の甲賀市の姿について、数値が合わないところに目標値を足して調整していくということか。

事務局> 数値を積み上げていく部分もあるが、国・県の計画とも整合を図り、2050年のカーボンニュートラルを目指して施策展開についても精査し項目も追加していく予定である。数値が合わないから単純に数値を調整するというわけではなく、根拠を基に数字を積み上げていきたい。

委員> 53ページのイメージ図について甲賀市の未来を描いてもらえるとと思っている。循環型社会では最終的にごみが出るが、ごみの記載が少ないと感じる。単純に焼却することが未来都市とは思えない。もう少し記載を追加してほしい。埋め立てという記載があったが避けた方が良いのではないか。

事務局> 廃棄物については減量だけでなく再資源化もあり、また未来には技術進歩も含め現状の処理方法だけではないと思う。イメージ図について、見た人に夢を持ってもらえるようなものに仕上げていきたい。

会長> ごみを燃やして発電はしていないと聞いている。新しい焼却炉には発電を組み込まないと補助金が出ない。以前はし尿処理でメタン発酵をしていたが、コストの問題かやめてしまったのはもったいないと思う。

私の地元で小水力をやっている人から、eVTOLという人を運ぶドローンの話を聞いたことがある。外国では実用化レベルで進んでおり、大阪万博で広がると言われている。そういう明るい未来を組み込んでもらえると良いのではないかと思う。

生ごみたい肥化循環事業をやりたい人だけでなく全員がやり、その後メタン発酵に移すという流れに持っていきたい。そして、紙やプラスチックの焼却では発電すると全てがエネルギーに変わる。ヨーロッパでは生ごみからエネルギーをつくることを当たり前のようにやっているので決して未来の話ではないとは思いますが、夢を持たせてほしいと思う。

会長> 他にご意見はないか。持ち帰ってから気づいたことや提案を含めたご意見を事務局まで連絡していただきたい。方法はどうしたらよいか。

事務局> メールやファックス、電話でも構わないのでお願いします。

会長> 今の状況では、再度集まることなく修正や変更を反映し、それを見せてもら

えたら良いかと思う。

○閉会あいさつ（職務代理者）

委員＞ ゼロカーボンシティを目指すという宣言がある限り、実現に向けた実行計画は宣言につながるものであってほしいと思う。委員の意見を十分に取り入れ、甲賀市らしい実効性のある計画にしてほしい。